

2012年度 理事者の1年



2012年度理事者の任期もあと1ヶ月を残すところとなりました。今年度は、蒲田法律相談センターの開設、外国人事件の専門相談所である東京パブリック法律事務所三田支所の開設、新規登録弁護士全員を対象にしたクラス別研修制度の発足がありました。理事者はその他、東日本大震災・原子力発電所事故の被災者・被害者の権利回復、法曹養成・法曹人口問題、取調べの可視化などの諸課題にも精力的に取り組んで来られました。そのような1年を振り返り会長、副会長に執筆いただきました。(なお、会長からの各副会長についての、副会長からの1年間席が隣であった副会長についての、一言ずつのコメントもお楽しみ頂ければ幸いです。)

検証と改革の一年

会長 斎藤 義房 (26期)



2012年度は、史上初の日弁連会長再選挙から始まりました。司法改革に対する日弁連内の評価が分かれていることが、日弁連会長選挙にも反映したと言えるでしょう。その意味で、本年度は、司法改革の現状を検証し、市民に身近で利用しやすい司法をつくるという改革の原点から取り組みを再構築する一年でした。

また、東日本大震災・原発事故の被災者・被害者の権利救済に向けて、弁護士・弁護士会がさらに一層奮闘する必要性を痛感した一年でした。

あわせて、弁護士自治を堅持する観点から、会員

に対する指導と支援の具体的なあり方が強く問われています。

そのような厳しい状況の中でも、東弁は、蒲田法律相談センターの開設、外国人相談を集中的に取り扱う東京パブリック法律事務所三田支所の開所、新規登録弁護士クラス別研修制度の発足、多摩支部会員の資格の見直しなど、新しい制度づくりを一つ一つ実行し、次年度につなげることができました。

これは、古川、中城、大西、白井、石原、山田の6人の副会長のチームワーク、および佐々木、仲の両監事、常議員会の西尾議長、上妻副議長、出席率約9割を維持し続けた全常議員のご協力、ならびに熱意ある嘱託弁護士と職員の皆様のご支援の賜物です。あらためて深く感謝申し上げます。

斎藤会長が見た 6人の副会長

古川副会長…卓越したマネージメント能力と気配りで理事者室をまとめました。
中城副会長…体型から想像できないフットワークの軽さと柔軟な着想に感心しました。
大西副会長…独行しがちですが、非常に繊細な神経の持ち主であることを知りました。
白井副会長…財務、クラス別研修などで見せた熱心かつ周到な準備に脱帽しました。
石原副会長…理論家。広報、知財、ITなど最先端の分野で大いに助けられました。
山田副会長…理事者会では寡黙ですが、予想外の角度からの問題提起がありました。

この一年を振り返って

副会長 古川 史高 (35 期)



2013年1月28日、弁護士会5階ロビーに貼り出された次年度役員候補者のポスターを見た時に、1年前の自分の姿が重なった。あれから1年、何かモタモタしていたような気がするが、過ぎてしまえば早いものである。

昨年2月就任が決まってから、即前年度役員からの引継ぎがはじまり、4月からは、5月の東弁総会に向けた準備に入り、日々予算の議論が行われた。80名の定足数ギリギリで、本年度の予算が承認された時には、思わず安堵のため息をついた。

7月から秋にかけて、各地区弁連、日弁連等の行事が目白押し。週末ほとんどつぶれた感じが強いが、大分（日弁連総会）－弘前（東北弁連）－札幌（北海道弁連）－佐賀（日

弁連人権大会）－広島（中国弁連）－名古屋（中部弁連）－奈良（近弁連）と続いた全国行脚は大変有意義であった。

秋の東弁の二つの行事、運動会と職員旅行・台北も大変楽しいものであった。久々に参加した運動会では、職員の方との二人三脚、会派対抗の綱引き、役員チームで臨んだ対抗リレーなど、翌日に身体が痛くなることなど忘れて夢中になってかいた汗は爽快であった。台北旅行では、職員との親睦ばかりではなく、台北弁護士会との交流、最高法院（最高裁判所・最高検察庁）の訪問も行い大変有意義なものとなった。

秋の旅行が終り、忘年会、新年会が終れば、次年度への引継ぎが目前。職員人事の諸問題や不祥事対応など残された課題は多々あるが、精一杯駆け抜けた1年であったと思う。

会員の皆様、職員の皆様のご支援に心から感謝しているところである。

となりの副会長が見た 古川副会長

筆頭副会長として、すべてにおいて完璧にこなしていました。懇談会などの企画・立案、事務局との詳細・緊密な打ち合わせ、遺漏なき仕事の進め方、大変学ぶところが多かったです。正義感の強さも、並大抵のものではありませんでした。普段は温和に、いつもニコニコしているのに、理不尽な出来事に遭遇したときには、不動明王のように怒りを爆発させる一面も見られました。休憩の取り方の剛胆さもありました。とにかく会館内で上手に睡眠をとっていました。これからも、長いおつきあいをさせていただきたいと存じます。（中城重光）

お世話になりました

副会長 中城 重光 (38 期)



昨年4月に、東京弁護士会の副会長に就任以来1年が経過しようとしています。皆様、一年間、大変お世話になり、誠にありがとうございました。

自分自身、年度当初に大きな目標を立てていたわけでもなく、壮大な新規事業への取り組みなどを打ち出していたわけでもありませんでした。

常日頃から、当会が抱える身近な問題を抽出し、一つ一つ着実に解決していくべきであると考えていました。いつも、前向きな姿勢で、歩みはのろくとも実現可能な

ところから前進していくべきであると思っていました。

たとえば、新入会員が、登録と同時に、各種委員会を傍聴できる制度を作り、新入会員に入会当初から会務活動に関心を持って貰うということを考えていました。これは、皆様のご協力で実現しました。

また、当会全体として、コスト削減の努力や、弁護士会館の快適さの追求も考えていました。スタッフ一同が、自分の家（職場）という意識を持ち、環境整備をしながら日常的に節約に努めるということを目指しました。色々、細かいことを申し上げ、面倒をおかけしましたが、その精神は今後とも継続していただきたいと存じます。

となりの副会長が見た 中城副会長

身体は大きくて力持ち、気は優しい――「ゾウ」さん、中城副会長のイメージである。アフリカ象よりインド象（アジア象）か？ 見た通りの大きな身体に似合わず小回りがきく。中城副会長の即断即決で実行された改善点は多い。

また、全てに行動が速いし、突破力がある。台北旅行で台北弁護士会との交流、最高法院の見学を実現させ、日法協では俳優加藤剛氏の講演も実現させている（もともと何のつてもなかったのに！）。

人間関係の掌握術も抜群である。中城副会長に誘われて断る人はまずいない。誰からも愛され、敬われる人である。

（古川史高）

ジェットコースターのような1年でした

副会長 大西 英敏 (38 期)



1. 蒲田法律相談センターの産みの苦しみ

蒲田法律相談センターについては蒲田PTでの新たな企画作成の楽しい時期もつかの間、7月の一弁と地元有力事務所からの申し入れや横浜弁護士会の反対の動きもあり一弁、二弁との厳しい交渉が始まりました。その後理事者会や常議員会での議論、9月下旬の三会暫定合意、10月1日の開設、12月末の三会協定書合意を経て、ようやく1月から三会での共同開設にいたりしました。この間、理事者各位をはじめ法律相談課（とりわけ事務長に出向された三浦さん）を中心として財務、広報、情報システム等の各課にも大変なご苦勞をおかけしました。幸い大田区・品川区との連携、電話ガイドからの受任の試みも成功して順調なすべりだしとなっており、我が国初のセンターでの若手支援も含め難産の子が大きく育つことを期待したいと思います。

2. 弁護士会への責任を果たしました恩返しができたか？

2000年11月1日の日弁連臨時総会での法曹人口問題増と法科大学院開設に賛成した者として今年度は会員の業務対策として前記の通り蒲田法律相談センターを立ち上げるとともに、業務改革、債権法改正、国際ADR、弁護士倫理規則改正等の会務を行いました。果たしてこれで弁護士会への責任を果たし、また恩返しができたのかは心許ない限りです。

公約の達成率ですが、「怒らないこと」については異論はあるでしょうが自己採点では可で、会務と合わせ60%位でしょうか？

3. やり残したこと

原発問題については原発ADRの機能充実が急務であるところ、未だ十分とはいえない状況です。次年度は憲法改正問題が重要なテーマですが、体制的にはまだまだ不十分です。また業務については紹介センターの改革が必要です。

4. おわりに

1年間貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

となりの副会長が見た 大西副会長

大西副会長は、粘り強い人です。今回の蒲田法律相談センターの立ち上げに際し、当会内の企画立案の調整はもとより、既に立ち上った後からの他会との共同運営という難題を獅子奮迅の働きで 見事粘り強い調整で成し遂げました。そして、この難題を短期間で成し遂げたことをみてわかるように、仕事が早い。また、問題があればすぐ会則・規則等に戻って対応するという緻密さも兼ね備えています。さらに、人のアドバイスを受け入れる柔軟さもおり、仕事を離れると、素直でやさしく情のある表情をみせる人です。

(白井裕子)

感謝しています

副会長 白井 裕子 (38 期)



「弁護士の志を生かす活力と求心力のある弁護士会を！」を選挙スローガンに掲げた私でしたが、一年を振り返ると反省しきりです。それでも、担当副会長として関わらせていただいた、東弁の将来構想の一つであったクラス制の立ち上げ、それ

に伴い会員のメールアドレス把握への道筋がつけられたこと、法教育について委員会相互の情報交換の場として法教育サミットが開催できたこと、財務担当として事業計画と連動した次年度の予算編成案の策定や

委員会相互の不公平感を少なくする予算概算書の編成の取り組み等ができたのは、理事者・委員会の会員・職員の皆さんとの意見交換の中で実現できたものです。みんなで作り上げたという点で私にとって大きな喜びです。

これもひとえに、理事者・会員・職員の皆様のご理解とご協力のお陰であり、この場をお借りしてお礼申し上げます。

なお、選挙公約として、会務の継続性を確保するため、会長2年制・副会長1年任期の半数改選制を挙げながら取り組みはできませんでしたが、その必要性を益々痛感した1年でもありました。

となりの副会長が見た 白井副会長

①財務担当として職務に忠実：白井副会長のイメージは財務の白井であり、その壁は厚かったとの印象です。予算に忠実な態度は一貫しており、蒲田法律相談センター問題では大変なご尽力をいただきました。また予算要求ガイドライン作成等東弁財務の課題を的確に解決していった手腕は他の理事者からも高く評価されています。②きめ細やかな配慮：理事者の紅一点であり、職員への対応、理事者室での対応において、きめ細やかな配慮がうかがわれ、男女共同参画を自ら実践され、その結果もだされました。とりわけ、若手クラス制の構築、財務課や担当委員会の職員との打ち合わせも多く、職員が順番待ちをしている光景は理事者室では日常茶飯事でした。③明るい性格と多趣味：明るい性格でまた多趣味です。自他ともに認めるサッカー大好き人間ですし、ゴルフもお上手で台湾旅行ではご一緒させていただきました。この1年間我慢していることも多かったでしょうから、4月以降は大いにほじけて頂きたいです。

(大西英敏)

充実した1年でした

副会長 石原 修 (39期)



この1年で、あらためて東京弁護士会が基本的人権の擁護と社会正義、弁護士自治、さらには法の支配の実現のために様々な活動を行い、それらが会員、委員会、協議会、そして多くの東弁職員の精力的な働きにより支えられていることを

実感しました。

司法改革、法曹養成、国内外の人権問題等、様々な課題を抱える中、日弁連からの要請や意見照会も増えており、今年度は、関連委員会や会派へ多くの意見照会をお願いし、それを踏まえ、常議員会での活発

な議論や会員集会での意見交換がなされました。

日弁連常務理事を兼務させていただき、また、佐賀での人権大会、九州弁護士会連合会、四国弁護士会連合会、近畿弁護士会連合会の大会への参加、大阪、横浜、千葉、愛知、福岡等の弁護士会理事者との意見交換を通して、弁護士会が取り組むべき課題、各弁護士会の特色ある若手支援や広報の手法を学びました。

東弁の活動をウェブサイトやツイッターなど様々な媒体を利用して会員と市民に効果的に広報していくことが今後、ますます重要となります。

これら貴重な経験を踏まえ、次年度以降、少しでもお役に立てるよう頑張ります。

となりの副会長が見た
石原副会長

させるものでした。1年間、お疲れ様でした。

石原副会長は、いわゆるイケメンでダンディーであるうえ、「会長、喜ばせ隊」と自称するほど気が利いて上品で滑稽味を持つナイスガイです。それだけでなく、頭脳明晰で日弁連や広報等の膨大な資料を机の周りに積み上げて職務に没頭する姿は誰も寄せつけない紙の要塞に籠る戦士を彷彿と

(山田宣郷)

ありがとうございました

副会長 山田 宣郷 (41期)



毎年、1年間がだんだんと短く感じるようになってきました。自分の余命が残り少なくなってきた証明かもしれません。理事者になってこの1年間、自分は副会長として東京弁護士会の会員の為に何ができたのかを考えたとき、内心忸怩たる思いがします。

理事者会や各種委員会・協議会等に臨席し、稟議書の決裁やメールの確認をするなど、目の前の課題を熟すのに追われ、結局何もできなかったような気がしています。もちろん、このような日常業務と議論の積み重ねは

大切なことと思いますが、もう少し業務の効率化と整理された議論で理事者会の効率化が出来れば、東弁の在り方などじっくり腰を据えて考える時間もできたと思います。また、委員会活動については、もっと積極的に予算を使っても良かったのではないかと思います。但し、見学旅行等はその必要性を厳格に精査すべきでしょう。また、弁護士会が資格商法等に踊らされないように見識を高める必要性もあると考えます。

最後になりましたが、職員の皆さんにはこの1年大変お世話になりました。職員の陰ながらの助けと励ましが有ったからこそ、1年間の重責に耐えることが出来たと心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

となりの副会長が見た
山田副会長

山田副会長のお人柄は、机を見ればわかります。私と違い、いつも整然と整理されています。勉強のために観察したところ、山田副会長は会議が終わると直ちに資料をファイル、帰る前には必ず整頓されており、「最近書類が溜まって」とおっしゃるその机は、私の目からは驚くほど綺麗なものでした。2010年度の東弁監事なので、会務全般に精通し、するどい意見をお持ちで、何度も頭かされることがありました。しかも、博学で、幅広い分野の歴史や由来を教えてください。山田副会長の隣の席で、とても楽しい一年でした。

(石原 修)